

研究助成受領者14人など決定 矢崎科学技術振興記念財団

矢崎科学技術振興記念財団（細川興一理事長）は令和元年度の「研究助成金」受領者14人、「国際交流援助」受領者13人、「矢崎学術賞」受賞者2人を決定した。

同財団は、1983年以来、科学技術の発展を目的として「研究助成」事業を行っており、今年度も独自の成果が科学技術の進歩に大きく貢献すると考えられる研究を

対象とし選考が行われた。「研究助成」は、「新材料」「エネルギー」「情報」の各分野を対象領域としており、「一般研究助成」、「奨励研究助成」、「特定研究助成」の三つの助成制度がある。また、国際的な学会での研究発表や共同研究をする際の渡航費を支援する「国際交流援助」や、過去に同財団から研究助成を受けた研究者のなかから優れた業績をあげた研究者に与える「矢崎学術賞」がある。

「一般研究助成」（200万円）は小野智司鹿児島大学学術研究院理工学域工学系准教授「異常検知や変化点検知における教師信号付き学習データの合成方式の提案」はじめ7件（応募79件）。原則35歳以下の若手研究者が対象の「奨励研究助成」（100万円）は佐藤孝憲

兵庫県立大学大学院工学研究科助教「光演算回路のためのシリコンリング光共振器を用いた集積型可変フェーズシフタおよびパワーデバイス向けの開発」はじめ7件（応募44件）。財団が特定した2テーマ（質の高い高齢者・身障者支援技術の開発「モビリティ社会の変革」CASE、Maasなど）実現を支える基盤技術に関する研究）にふさわしい研究が対象の「特定研究助成」（1000万円）は該当なし（応募10件）。「国際交流援助」は13人（応募20件）。「矢崎学術賞」功績賞は水口将輝東北大学金属材料研究所准教授、若手研究者を対象の奨励賞は坂本良太京都大学大学院工学研究科准教授（応募11件）がそれぞれ選出された。

なお、5日に開催を予定していた研究助成金贈呈式は、新型コロナウイルスの感染拡大のリスクが高まっていること等を踏まえ中止された。